

人間科学部 教授 石金浩史 Hiroshi Ishikane

この本は、視覚を専門とした神経科学の研究者が、人間の視覚特性からそれを支える神経機構について熱く語った名著である。まず、私達が見ているものについて、印象深く興味をそそる例を用いて紹介している。私達は網膜に投影された物理的な映像をそのままみているのではなく、視覚脳が処理した結果が反映された形で見えるという事実を紹介している。脳には色や形を処理する腹側路と運動や空間情報を処理する背側路が並列的に視覚情報を処理している。普段は気づかないが、それらの一部が損傷してしまった患者では意識と行動が乖離する現象が観察され、そこから腹側路と背側路の視覚情報処理の特性や私達の行動におけるそれらの役割が解き明かされていく。この本では、芸術作品や生活における身近な例を用いることで、私達の脳がどのような情報を抽出して意識にのぼらせているのかを巧みに読者に理解させることに成功している。一般向けではあるが、この本では視覚を支える神経機構についてニューロン1個の特性から丁寧に解説しているのも特筆できる点であろう。

面白いトピックだけ羅列したものが多い中、読者に視覚に対する強い興味をかき立て、夢中で読んでいる内にその背景にある神経メカニズムまでしっかり理解出来る流れになっている。著者は最後に自分の考えを思う存分述べているが、研究に対する真摯で熱い思いが爽快に感じられ、学問する人生に興味を持てるかもしれない。



脳はなにを見ているのか /
藤田一郎 [著] 初版
角川学芸出版, 2013.4

本 館 K/491/F67
神田分館 /491/F67